

平成 28 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	10	05	01	104340	生涯学習活動支援事業	
総合計画	分野	人づくり				
	政策	3-3	生涯学習の推進			
	施策	1	自主的学習の推進			
目的	自主的な生涯学習の取り組み支援					
対象	市民及び市民団体					
意図	生涯にわたっていつでもどこでも学べる環境を提供する					
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること						
<p>○ふれあい出前講座 生涯学習講師、公共機関の職員を10人以上のグループに講師として派遣。専門知識等を生かした講座実施</p> <p>○生涯学習フェア（まなび学園祭）開催 まなび学園利用者の学習成果の発表の場・市民の生涯学習のきっかけづくり</p> <p>○まなびキャンパスカード 児童生徒・富士大生が公共施設を利用しやすくすることで、ふるさと花巻への認識を高める。</p> <p>○学習資源検索システム（はなまきまなびガイド） 指導者・生涯学習団体・先人・学習相談機関などをHP（はなまきまなびナビ）で紹介</p> <p>○まなび情報ステーション まなび学園に生涯学習団体等が情報発信できるコーナーを設置</p> <p>○まなびキャンパススタンプラリー 各課（機関）の事業を生涯学習の単位と見做すことで、主体的な生涯学習活動を支援</p>						
市民参画の有無 [ 無 ]						
市民協働の形態		共催		実行委員会・協議会		
		後援・協賛		補助・助成		
事業協力・協定		委託				
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位	区分	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
①	生涯学習団体登録数	団体	計画	190	190	
			実績	141	134	
②			計画			
			実績			
③			計画			
			実績			
成果指標（上記「意図」に対応）		単位	区分	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
①	生涯学習講師新規登録者数	人	目標	20	20	
			実績	13	11	
②	受講者アンケートによる、もっと学んでみたいと思う人の割合	%	目標	80.0	90.0	
			実績	99.2	97.5	
③	まなび学園祭を見て、生涯学習に取り組んでみたいと思う人の割合	%	目標	70	70	
			実績	44.5	48.0	
成果指標の達成度	目標値より高い		概ね目標値どおり	○ 目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)	
<p>○まなび学園祭を見て、生涯学習に取り組んでみたいと思う人の割合 ・まなび学園祭は、「学習成果の発表の場」「生涯学習のきっかけづくりの場」と位置付けており、観覧等を通じて、市民の学習ニーズや学習意欲の向上に少なからず影響を与えていると史料されるものの、アンケートでは、約半数の方にとどまっている。</p> <p>○受講者アンケートで「もっと学んでみたい」と答えた人の割合 ・講座等のアンケートでは、「もっと学んでみたい」と答えた市民の割合は97.2%であり、当事業で市民の自主的な生涯学習への支援することが、市民の学習への意欲の醸成に繋がっていると史料される。</p>	
目的妥当性	公共関与の妥当性
○ 妥当である	・生涯にわたっての学び、心豊かな生活を送るため、市民の生涯学習への取組みを支援することは妥当である
見直し余地がある	
妥当でない	
有効性	成果の向上余地
○ 向上余地がある	・生涯学習活動への支援により、趣味や生きがいのため学習として個人を高めるだけでなく、地域づくりへの関心等も深まり、学習に取り組む市民が増えていくことが期待できる
向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地
事業費の削減余地がある	・事業費は講師の派遣経費や学習資源の検索システムのランニングコスト等であることから削減余地はない。
人件費の削減余地がある	・職員が関わるのは、内容の企画立案・実績集約・講師との連絡調整などが主な業務であり、人件費の削減余地はない
○ どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地
受益機会の見直し余地がある	・受益者は、特定の市民ではなく、希望する全市民の誰もが対象であることから、受益機会は均等である
費用負担の見直し余地がある	
○ 適正である	
総合評価 …上記評価結果の総括	
<p>○生涯学習のきっかけづくりとして、多様な学習機会の提供を行ったことにより、市民の主体的・自主的に学ぶ意欲が高まっている。</p> <p>○本事業の構成は、市民が主体的に学ぶために必要な、講師等の学習資源の紹介、（市の生涯学習拠点施設における）学習成果の発表の場・生涯学習のきっかけづくりを活動として盛り込んでおり、今後とも主体的、自主的に学ぶ意欲の醸成に努めていきたい。</p>	

平成 28 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業J-ト	事業名
一般	10	05	01	104340	生涯学習活動支援事業

単位：千円

		27年度 決算額(A)	28年度 決算額(B)	29年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		6,347	6,329		△ 18
財源内訳	国・県				
	地方債				
	その他				
	一般財源	6,347	6,329		△ 18

事業期間	○ 単年度繰返	期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	---------	------	-----------------

部重点施策における目標

生涯学習の推進に努めます。

事業開始の背景・経緯

市内の施設や地域資源などの学習資源を活用し、市民が自主的に学べる環境づくりを進めるとともに、市民が自らのニーズに基づき学習した成果を地域に還元し、まちづくりにつなげることが求められている。

事業概要

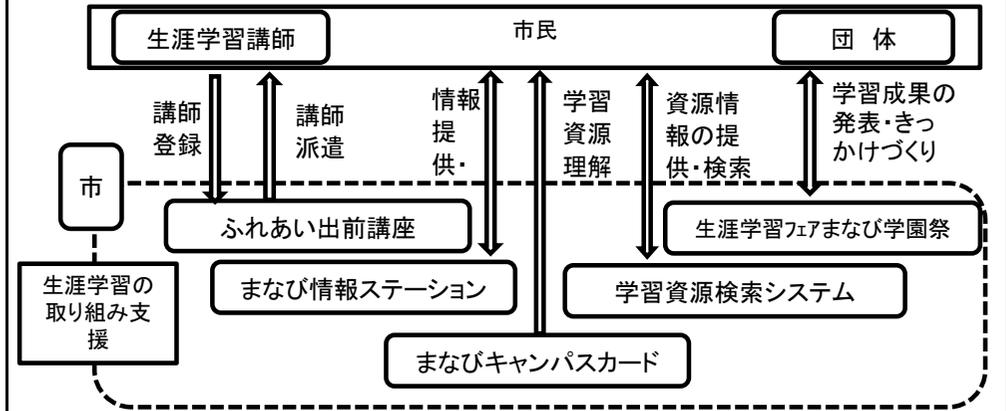
- ふれあい出前講座  
生涯学習講師、公共機関の職員を10人以上のグループに講師として派遣。専門知識等を生かした講座実施
- 生涯学習フェア（まなび学園祭）開催  
まなび学園利用者の学習成果の発表の場・市民の生涯学習のきっかけづくり
- まなびキャンパスカード  
児童生徒・富士大生が公共施設を利用しやすくすることで、ふるさと花巻への認識を高める。
- 学習資源検索システム（はなまきまなびガイド）  
指導者・生涯学習団体・先人・学習相談機関などをHP（はなまきまなびガイド）で紹介
- まなび情報ステーション  
まなび学園に生涯学習団体等が情報発信できるコーナーを設置
- まなびキャンパススタンプラリー  
各課（機関）の事業を生涯学習の単位と見做すことで、主体的な生涯学習活動を支援

事業を展開する上での課題、留意事項 / 意見・要望等

- ふれあい出前講座の「生涯学習講師編」は、講師登録者数（118人）と多く、市民が培った学習成果の発表の場ともなっている。一方で利用団体数は増加傾向にあり、ニーズに広く答えていく人材の登録を図っていくことが必要である。
- 生涯学習フェアまなび学園祭は、出展団体数が増加しており、市の生涯学習拠点施設の学習成果の発表の場となっている。

担当部署 部名 生涯学主部 課名 生涯学習課 担当係長 上野 剛 内線 401 (単位：千円)

【事業手法の詳細】…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。  
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】



- ①ふれあい出前講座 1,957千円  
報償費1,910、需用費95、役務費88
- ②生涯学習フェア（まなび学園祭）開催 793千円  
報償費44、需用費149、役務費7、委託料450、使用料及び賃貸料143
- ③まなびキャンパスカード 175千円  
需用費175
- ④学習資源検索システム（はなまきまなびガイド） 168千円  
委託料169
- ⑤まなび情報ステーション (ゼロ予算)
- ⑥まなびキャンパススタンプラリー (ゼロ予算)
- ⑦共通経費 3,236千円  
賃金等3,236（臨時補助員賃金2名分等）